ノンテクニカルスキル教育の三科目構成の実際とその理由

・ノンテクニカルスキル教育のプログラムを組む上で考慮したいことは集中できる 100 分間を教育時間とするのがよい。プログラムは３科目で構成し、第１科目はその回の教育テーマを取り上げた理由や背景・目的を説明し、関連する社会心理学・組織心理学などの学術的成果についても合計 20 分間易しく解説する。次にテーマに関係する演習を約 60 分間実施する。

そして最後の 20 分間の第三科目ではその回のテーマに関係する災害事例を詳しく説明した。その修得すべきノンテクニカルスキルの要素と演習に関連した自工場内の過去の災害やプロセス事故を 5,6 件題名だけ紹介し、そのノンテクニカルスキルの要素が不足したことが起因であったことを簡単に述べ、その事例の中から１件を選び、そのノンテクニカルスキルの要素に焦点を当て詳しく事例研究すると効果的である。

第三科目を行動特性評価にあてる場合も 3 科目構成とする。行動特性評価だけを職場会議の後に 20 から 30 分でできるからと言って単独でやらない。

行動特性評価をいれる
３科目構成

(1)30分　ノンテクニカルスキルの要素の説明　これが重要！
(2)50分　あなたならどうする演習
(3)20分　行動特性評価

ポイント：行動特性評価だけをしない

例えば思い込み防止教育であれば

行動特性評価をいれる
３科目構成　例１

(1)30分　思い込みの１０パターンとその防止方法
　　（ノンテクニカルスキルの要素の説明）
(2)50分　思い込み事故を題材に
　　あなたならどうする演習か分かれ道演習 を３題
(3)20分　思い込み・おっちょこちょいの行動特性評価
　　行動特性評価

・演習を取り入れている理由と効果

事故事例の水平展開において重要なことはその事故から運転員やスタッフが自ら学ぶ力を育てることである。他社の大きな事故・自社の事故の話を聞いて自分の中に「自分が同じようなことを再発しないようにするにはどうすればよいか」「自部署で再発させないようにするにはどうすればよいか」を当事者意識で謙虚に考えることである。よそ事のようにとらえたり、そのようなことは起こらないと思い込む傾向が強いとせっかくの教訓が役に立たない。

意見交換を中心としたこれらの演習では話したことはご自身の意見表明であり、決意になりことがある。ずっと座ったまま講師の話を 100 分聞くより、そのうちの半分を受講者の意見交換演習にすると「教育のやらされ感」もなくなり、教育への参画意識も上がると思われる。

「確かに学ぶ力」に求められる要素は

① 知識・技能
② 知識・技能の活用力
③ 主体性・多様性・協調性である。

演習をする場合も他部署の方と編成することによって他者・他部署の考えがわかり、自分・自部署の考えと比較できる。振り返りシートにこのように書いてあった。「部署が違うと考えが違うこともあるので、参考になる。」「同じ部署なのに年齢がちがうと考えのベースが違った。」